

令和4年12月9日
統計部公表

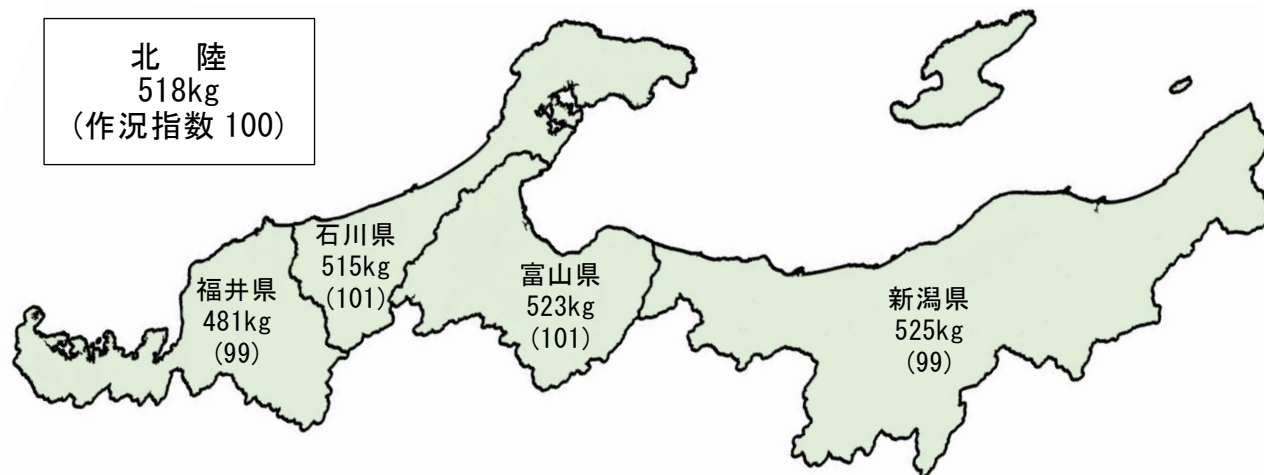
作物統計調査 令和4年産水稻の収穫量（北陸）

— 収穫量（子実用）は107万2,000 t —
10 a 当たり収量は518kg、作況指数は100

【調査結果の概要】

- 令和4年産水稻の作付面積（子実用）は19万8,200haで、前年産に比べ3,600ha減少した。うち主食用作付面積は17万3,500haで、前年産に比べ4,400ha減少した。
また、収穫量（子実用）は107万2,000 t で、前年産並みとなった。このうち、主食用の収穫量は93万8,800 t で、前年産に比べ5,800 t 減少した。
- 農家等が使用しているふるい目幅ベースの10 a 当たり収量は518kgで、作況指数は100となった。

図1 県別10 a 当たり収量及び作況指数
〈農家等が使用しているふるい目幅ベース〉



(参考) 算出に用いるふるい目幅

新潟県	富山県	石川県	福井県
1.85mm	1.90mm	1.85mm	1.90mm

- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10 a 当たり収量及び作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅の分布において、県別に最も多い使用割合のふるい目幅（上記（参考）の表による。）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

本資料は、北陸農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/220425.html> 】

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎累年データ

水稻の年次別推移（北陸）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成 24 年産	213,400	209,400	545	1,141,000	194,100	1,057,000	102
25	215,100	212,700	545	1,160,000	193,900	1,058,000	102
26	215,500	212,500	536	1,139,000	190,000	1,019,000	100
27	214,100	207,800	531	1,104,000	184,100	977,800	99
28	213,400	205,600	567	1,165,000	182,100	1,031,000	107
29	212,500	204,100	529	1,079,000	180,100	952,100	98
30	212,700	205,600	533	1,096,000	184,800	985,300	98
令和 元	212,800	206,500	540	1,115,000	186,400	1,007,000	101
2	212,300	206,400	550	1,135,000	185,900	1,021,000	102
3	211,500	201,800	531	1,072,000	177,900	944,600	97
4	209,900	198,200	541	1,072,000	173,500	938,800	100
対前年差	△ 1,600	△ 3,600	10	0	△ 4,400	△ 5,800	3

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
 2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
 4 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、
 ・ 平成26年産以前は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出
 ・ 平成27年産から令和元年産までは、北陸地域の農家等が過去5か年間に実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出
 ・ 令和2年産以降は、各県ごとの農家等が過去5か年間に実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合のふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出

水稻の年次別推移（新潟県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成 24 年産	120,100	117,500	558	655,700	107,300	598,700	104
25	121,100	119,700	555	664,300	107,100	594,400	103
26	121,700	120,100	547	656,900	105,300	576,000	101
27	121,300	117,500	527	619,200	102,400	539,600	97
28	121,300	116,800	581	678,600	101,500	589,700	108
29	120,900	116,300	526	611,700	100,300	527,600	96
30	121,500	118,200	531	627,600	104,700	556,000	95
令和 元	121,900	119,200	542	646,100	106,800	578,900	100
2	121,800	119,500	558	666,800	106,700	595,400	103
3	121,400	117,200	529	620,000	101,800	538,500	96
4	121,100	116,000	544	631,000	99,900	543,500	99
対前年差	△ 300	△ 1,200	15	11,000	△ 1,900	5,000	3

◎累年データ（続き）

水稻の年次別推移（富山県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成 24 年産	39,800	39,000	536	209,000	36,300	194,600	100
25	40,200	39,700	546	216,800	36,300	198,200	102
26	40,200	39,500	541	213,700	35,700	193,100	101
27	39,500	38,600	559	215,800	34,200	191,200	103
28	39,300	38,100	566	215,600	33,800	191,300	106
29	39,100	37,600	546	205,300	33,300	181,800	100
30	38,900	37,300	552	205,900	33,300	183,800	102
令和 元	38,900	37,200	553	205,700	33,300	184,100	102
2	38,900	37,100	556	206,300	33,200	184,600	103
3	38,700	36,300	551	200,000	32,200	177,400	99
4	38,100	35,500	556	197,400	31,300	174,000	101
対前年差	△ 600	△ 800	5	△ 2,600	△ 900	△ 3,400	2

水稻の年次別推移（石川県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成 24 年産	26,800	26,400	526	138,900	25,100	132,000	101
25	27,000	26,700	522	139,400	25,000	130,500	101
26	27,000	26,600	508	135,100	24,300	123,400	98
27	26,700	26,100	522	136,200	23,600	123,200	101
28	26,400	25,600	534	136,700	23,200	123,900	104
29	26,100	25,300	519	131,300	23,200	120,400	99
30	25,800	25,100	519	130,300	23,200	120,400	100
令和 元	25,600	25,000	532	133,000	22,700	120,800	102
2	25,400	24,800	530	131,400	22,600	119,800	101
3	25,200	23,800	527	125,400	21,400	112,800	101
4	24,900	23,100	532	122,900	20,700	110,100	101
対前年差	△ 300	△ 700	5	△ 2,500	△ 700	△ 2,700	0

水稻の年次別推移（福井県）

年 産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	子実用 ha					
平成 24 年産	26,700	26,400	519	137,000	25,400	131,800	100
25	26,900	26,500	526	139,400	25,600	134,700	102
26	26,600	26,200	510	133,600	24,700	126,000	98
27	26,400	25,600	518	132,600	23,900	123,800	99
28	26,300	25,100	535	134,300	23,600	126,300	104
29	26,300	24,900	525	130,700	23,300	122,300	101
30	26,400	25,000	530	132,500	23,600	125,100	101
令和 元	26,400	25,100	520	130,500	23,600	122,700	100
2	26,200	25,100	518	130,000	23,300	120,700	99
3	26,100	24,500	515	126,200	22,500	115,900	99
4	25,700	23,500	515	121,000	21,600	111,200	99
対前年差	△ 400	△ 1,000	0	△ 5,200	△ 900	△ 4,700	0

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（15ページ【参考1】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

表1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（北陸）

単位：%

年 産	計	1.70mm以上	1.75	1.80	1.85	1.90	2.00mm
		1.75mm未満	～1.80	～1.85	～1.90	～2.00	以上
平成 29 年産	100.0	0.7	1.3	1.7	2.5	14.2	79.6
30	100.0	0.7	1.6	2.5	3.7	19.6	71.9
令和 元	100.0	0.5	0.9	1.2	2.0	12.0	83.4
2	100.0	0.5	1.0	1.3	2.1	12.0	83.1
3	100.0	0.9	1.4	1.6	3.1	16.1	76.9
4	100.0	0.9	1.2	1.4	2.6	13.1	80.8
平均値	100.0	0.7	1.2	1.7	2.7	14.8	78.9
対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.0	△ 0.3	△ 0.1	△ 1.7	1.9

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表2 ふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（北陸）

年 産	単位	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm	
		以上	以上	以上	以上	以上	以上	
平成 29 年産	10a 当たり収量	kg	529	525	518	509	496	421
	収穫量	t	1,079,000	1,071,000	1,057,000	1,039,000	1,012,000	858,900
30	10a 当たり収量	kg	533	529	521	507	488	383
	収穫量	t	1,096,000	1,088,000	1,071,000	1,043,000	1,003,000	788,000
令和 元	10a 当たり収量	kg	540	537	532	526	515	450
	収穫量	t	1,115,000	1,109,000	1,099,000	1,086,000	1,064,000	929,900
2	10a 当たり収量	kg	550	547	542	535	523	457
	収穫量	t	1,135,000	1,129,000	1,118,000	1,103,000	1,079,000	943,200
3	10a 当たり収量	kg	531	526	519	510	494	408
	収穫量	t	1,072,000	1,062,000	1,047,000	1,030,000	997,000	824,400
4	10a 当たり収量	kg	541	536	530	522	508	437
	収穫量	t	1,072,000	1,062,000	1,049,000	1,034,000	1,007,000	866,200
	対前年比	%	100	100	100	100	101	105

注：1 ふるい目幅別の 10a 当たり収量とは、北陸の 10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、北陸の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

3 令和4年産の対前年比は、収穫量の対比である。

【北陸地域の調査結果】

- 令和4年産水稻の作付面積(子実用)は19万8,200ha(前年産に比べ3,600ha減少)となった。
また、水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は17万3,500ha(同4,400ha減少)となった。(表3参照)
- 水稻の作付面積(子実用)に10a当たり収量(1.70mm基準ベース)を乗じた収穫量(子実用)(以下「収穫量(子実用)」という。)は107万2,000t(前年産並み)、うち主食用は93万8,800t(前年産に比べ5,800t減少)となった。(表3参照)
- 水稻の作柄は、田植え以降、気温、日照ともおおむね確保されたことから全もみ数は「平年並み」となり、登熟も8月中下旬の日照不足があったものの、出穂期以降、総じて高温で推移したことから「平年並み」となった。
以上の結果、農家等が使用しているふるい目幅ベース(以下「ふるい目幅ベース」という。)の10a当たり収量は、518kg(前年産に比べ13kg増加)、作況指数は100となった。(表4参照)
- ふるい目幅別重量分布状況は、1.85mm以上の玄米の重量割合は96.5%、1.90mm以上は93.9%で、直近5か年平均値に比べ、それぞれ0.1ポイント、0.2ポイント高くなった。(表5参照)

表3 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量
(1.70mm基準ベース)

区分	作付面積(子実用)			10a当たり収量(1.70mm)		収穫量(子実用)			主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産 との比較 対差	実数 ③=①×②	前年産との比較			
		対差	対比				対差	対比		
北 陸	198,200	△ 3,600	98	541	10	1,072,000	0	100	173,500	938,800
新 潟 県	116,000	△ 1,200	99	544	15	631,000	11,000	102	99,900	543,500
富 山 県	35,500	△ 800	98	556	5	197,400	△ 2,600	99	31,300	174,000
石 川 県	23,100	△ 700	97	532	5	122,900	△ 2,500	98	20,700	110,100
福 井 県	23,500	△ 1,000	96	515	0	121,000	△ 5,200	96	21,600	111,200

注：1 作付面積(子実用)及び主食用作付面積は、四捨五入しているため、県ごとの積上げ値が北陸値と一致しない場合がある。
2 収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)の北陸値は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

表4 令和4年産水稻の10a当たり収量及び作柄概況
(農家等が使用しているふるい目幅ベース)

区分	農家等が使用しているふるい目幅ベース					作柄概況(平年比較)			
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり収量		10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数 の多少	登熟の良否
		実数 ①	前年産との比較 対差						
北 陸	...	518	13	519	100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
新 潟 県	1.85	525	18	528	99	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
富 山 県	1.90	523	8	520	101	多い	やや少ない	やや多い	やや不良
石 川 県	1.85	515	3	509	101	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良
福 井 県	1.90	481	3	484	99	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み

注：1 「農家等が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量」とは、県別に最も多い使用割合のふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
2 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%に相当する。

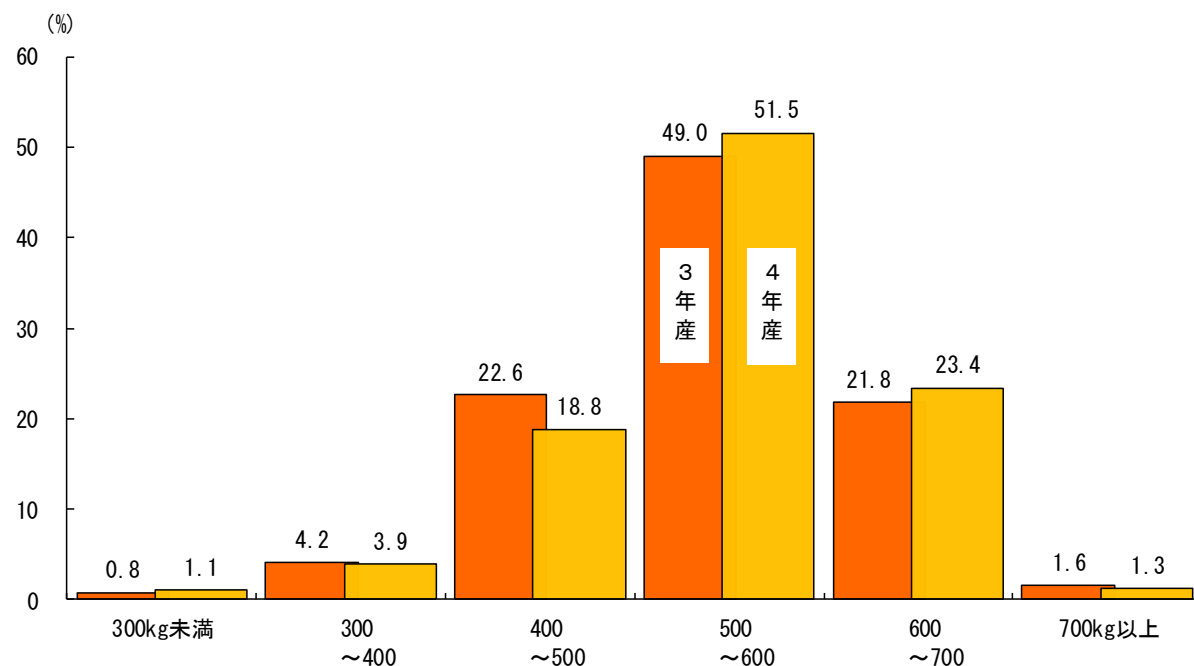
表5 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
北 陸	重量割合	100.0	0.9	1.2	1.4	2.6	13.1	80.8
	平均値	100.0	0.7	1.2	1.7	2.7	14.8	78.9
	対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.0	△ 0.3	△ 0.1	△ 1.7	1.9
新 潟 県	重量割合	100.0	0.9	1.2	1.4	2.7	12.7	81.1
	平均値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.8	15.7	77.7
	対平均差(ポイント)	0.0	0.2	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.1	△ 3.0	3.4
富 山 県	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.6	2.4	13.2	80.8
	平均値	100.0	0.5	1.1	1.3	2.6	13.5	81.0
	対平均差(ポイント)	0.0	0.3	0.1	0.3	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.2
石 川 県	重量割合	100.0	0.7	1.1	1.4	2.4	12.7	81.7
	平均値	100.0	0.6	1.0	1.3	2.2	11.9	83.0
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.8	△ 1.3
福 井 県	重量割合	100.0	0.9	1.3	1.5	2.9	14.9	78.5
	平均値	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	15.1	77.7
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.2	△ 0.4	0.0	△ 0.2	0.8

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

図2 令和4年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（北陸）



注：10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

表6 令和4年産水稻における農家等が使用したふるい目幅の分布【水稻作況標本（基準）筆農家からの聞き取り結果】

単位：%

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
北 陸		100.0	-	0.1	1.3	34.3	63.9	0.4
新 潟 県		100.0	-	0.2	3.1	59.6	36.1	1.0
富 山 県		100.0	-	-	-	9.2	90.8	-
石 川 県		100.0	-	-	0.5	43.7	55.8	-
福 井 県		100.0	-	-	-	3.0	97.0	-

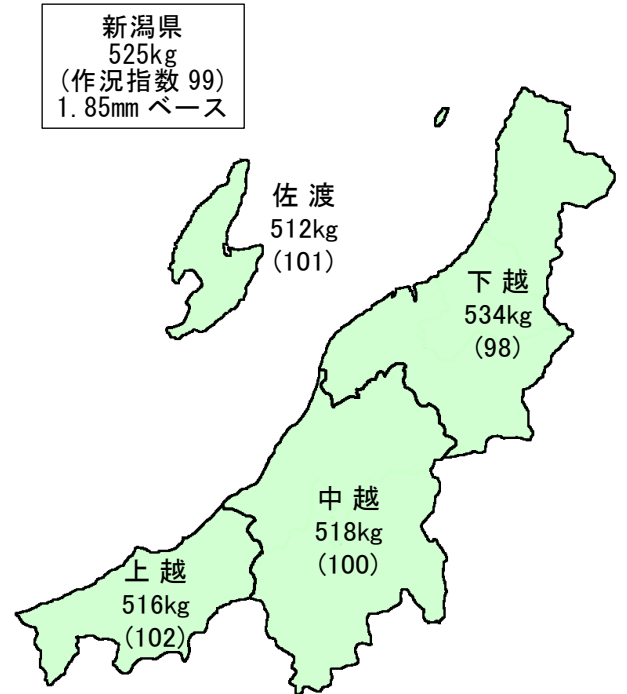
注：農家等が使用したふるい目幅の分布とは、水稻作況標本（基準）筆農家を使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

【管内各県の調査結果】

1 新潟県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は11万6,000ha（前年産に比べ1,200ha減少）となった。
このうち、主食用作付面積は9万9,900ha（同1,900ha減少）となった。
- (2) 収穫量（子実用）は63万1,000 t（前年産に比べ1万1,000 t 増加）となり、このうち、主食用は54万3,500 t（同5,000 t 増加）となった。
- (3) 作柄は、6月前半の低温、日照不足により穂数は「やや少ない」となり、1穂当たりもみ数は7月中旬から出穂期にかけて、気温、日照ともに確保され「平年並み」となったことから、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数。以下同じ。）は「やや少ない」となった。
登熟は、出穂期以降、おおむね気温は確保され、また全もみ数がやや少なかったことによる補償作用により、「やや良」となった。
以上の結果、ふるい目幅ベース（1.85mm）の10 a 当たり収量は525kg（前年産に比べ18kg増加）で、作況指数は99となった。

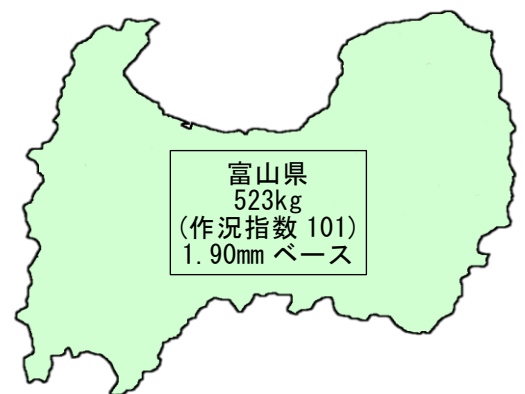
図3
新潟県の作柄表示地帯別
10 a 当たり収量及び作況指数



2 富山県

- (1) 水稻の作付面積（子実用）は3万5,500ha（前年産に比べ800ha減少）となった。
このうち、主食用作付面積は3万1,300ha（同900ha減少）となった。
- (2) 収穫量（子実用）は19万7,400 t（前年産に比べ2,600 t 減少）となり、このうち、主食用は17万4,000 t（同3,400 t 減少）となった。
- (3) 作柄は、田植え直後の好天により初期生育は良好で、穂数は「多い」となり、1穂当たりもみ数は穂数が多いことによる相反作用により「やや少ない」となったことから、全もみ数は「やや多い」となった。
登熟は、8月中旬以降の日照不足や全もみ数がやや多いことによる相反作用により、「やや不良」となった。
以上の結果、ふるい目幅ベース（1.90mm）の10 a 当たり収量は523kg（前年産に比べ8 kg増加）で、作況指数は101となった。

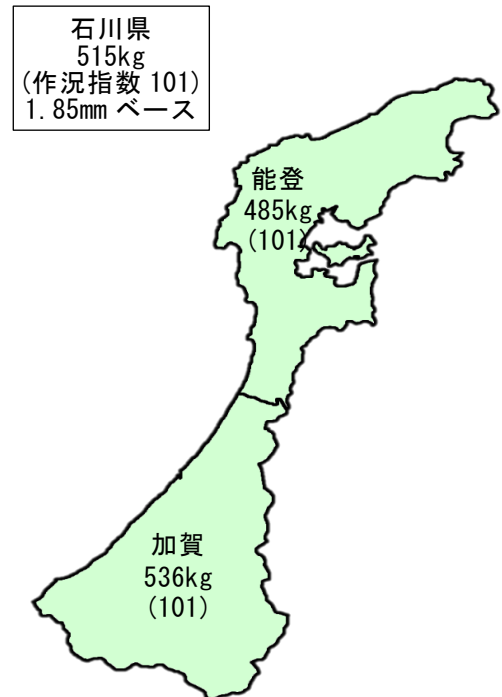
図4
富山県の10 a 当たり収量
及び作況指数



3 石川県

- (1) 水稲の作付面積（子実用）は2万3,100ha（前年産に比べ700ha減少）となった。
このうち、主食用作付面積は2万700ha（同700ha減少）となった。
- (2) 収穫量（子実用）は12万2,900 t（前年産に比べ2,500 t 減少）となり、このうち、主食用は11万100 t（同2,700 t 減少）となった。
- (3) 作柄は、田植え直後の好天により初期生育は良好で、穂数は「やや多い」となり、1穂当たりもみ数は7月の高温、多照により「やや多い」となったことから、全もみ数は「やや多い」となった。
登熟は、8月中旬以降の日照不足や全もみ数がやや多いことによる相反作用により、「やや不良」となった。
以上の結果、ふるい目幅ベース（1.85mm）の10 a 当たり収量は515kg（前年産に比べ3 kg 増加）で、作況指数は101となった。

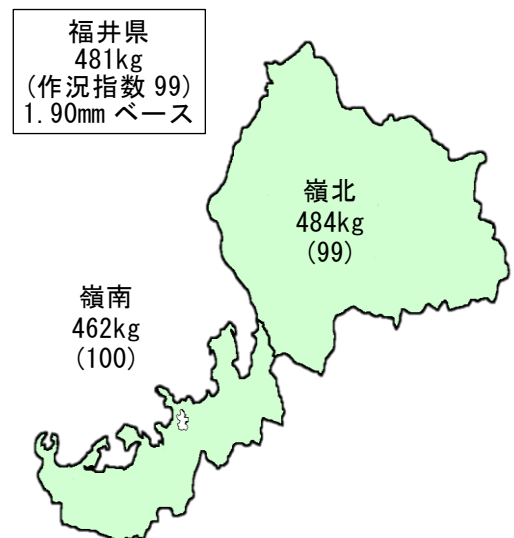
図5
石川県の作柄表示地帯別
10 a 当たり収量及び作況指数



4 福井県

- (1) 水稲の作付面積（子実用）は2万3,500ha（前年産に比べ1,000ha減少）となった。
このうち、主食用作付面積は2万1,600ha（同900ha減少）となった。
- (2) 収穫量（子実用）は12万1,000 t（前年産に比べ5,200 t 減少）となり、このうち、主食用は11万1,200 t（同4,700 t 減少）となった。
- (3) 作柄は、田植え以降、天候に恵まれたことから、穂数は「平年並み」となり、1穂当たりもみ数は7月中旬から出穂期にかけて、気温、日照ともに確保され「平年並み」となったことから、全もみ数は「平年並み」となった。
登熟は、8月中旬以降、日照不足であったものの、気温は総じて高めに推移したことから、「平年並み」となった。
以上の結果、ふるい目幅ベース（1.90mm）の10 a 当たり収量は481kg（前年産に比べ3 kg 増加）で、作況指数は99となった。

図6
福井県の作柄表示地帯別
10 a 当たり収量及び作況指数



【統計表】

統計表一覧

- 1 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量
(1.70mm基準ベース)
- 2 令和4年産水稻の10a当たり収量及び作柄概況
(農家等が使用しているふるい目幅ベース)
- 3 令和4年産水稻の主要生育ステージ
- 4 令和4年産水稻の収量構成要素(水稻作況標本筆調査成績)
- 5 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況
- 6 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別10a当たり収量
- 7 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別収穫量(子実用)
- 8 令和4年産水稻の被害面積及び被害量(北陸)

利用上の注意

- 1 統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数(下から)		3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前(原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値(統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
「0」、「0.0」：増減がないもの
「－」：事実のないもの
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの
「nc」：計算不能
- 3 この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和4年産水稻の収穫量(北陸)」(北陸農政局)による旨を記載してください。

【統計表】

1 令和4年産水稻の作付面積及び収穫量
(1.70mm基準ベース)

区 分	作付面積 (子実用)			10 a 当たり収量(1.70mm)		収穫量 (子実用)			主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産 との比較 対 差	実 数 ③=①×②	前年産との比較			
		対 差	対 比				対 差	対 比		
北 陸	198,200 ^{ha}	△ 3,600 ^{ha}	98%	541 ^{kg}	10 ^{kg}	1,072,000 ^t	0 ^t	100%	173,500 ^{ha}	938,800 ^t
新 潟 県	116,000	△ 1,200	99	544	15	631,000	11,000	102	99,900	543,500
下 越	57,000	nc	nc	555	nc	316,400	nc	nc	…	…
中 越	39,300	nc	nc	535	nc	210,300	nc	nc	…	…
上 越	14,300	△ 300	98	535	13	76,500	300	100	…	…
佐 渡	5,460	△ 70	99	527	17	28,800	600	102	…	…
富 山 県	35,500	△ 800	98	556	5	197,400	△ 2,600	99	31,300	174,000
石 川 県	23,100	△ 700	97	532	5	122,900	△ 2,500	98	20,700	110,100
加 賀	13,500	△ 300	98	553	3	74,700	△ 1,200	98	…	…
能 登	9,610	△ 340	97	503	8	48,300	△ 1,000	98	…	…
福 井 県	23,500	△ 1,000	96	515	0	121,000	△ 5,200	96	21,600	111,200
嶺 北	20,200	△ 900	96	520	1	105,000	△ 4,500	96	…	…
嶺 南	3,320	△ 170	95	485	△ 9	16,100	△ 1,100	94	…	…

- 注：1 作付面積（子実用）及び主食用作付面積は、四捨五入しているため、県ごとの積上げ値が北陸値と一致しない場合がある。
 2 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 3 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）の北陸値は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
 4 「nc」は、作柄表示地帯を再編したことにより前年産との比較ができないことを表している。

2 令和4年産水稻の10 a 当たり収量及び作柄概況
(農家等が使用しているふるい目幅ベース)

区 分	農家等が使用しているふるい目幅ベース					作柄概況 (平年比較)			
	最も多い 使用割合 の目幅	10 a 当たり収量		10 a 当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1 穂当たり もみ数の多少	全もみ数 の多少	登熟の良否
		実 数 ①	前年産との比較 対 差						
北 陸	…	518 ^{kg}	13 ^{kg}	519 ^{kg}	100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
新 潟 県	1.85	525	18	528	99	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
下 越	…	534	nc	544	98	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み
中 越	…	518	nc	517	100	やや少ない	やや少ない	やや少ない	良
上 越	…	516	15	506	102	平年並み	平年並み	やや多い	やや良
佐 渡	…	512	31	506	101	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
富 山 県	1.90	523	8	520	101	多い	やや少ない	やや多い	やや不良
石 川 県	1.85	515	3	509	101	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良
加 賀	…	536	△ 1	531	101	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
能 登	…	485	8	478	101	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良
福 井 県	1.90	481	3	484	99	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
嶺 北	…	484	2	488	99	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
嶺 南	…	462	5	460	100	平年並み	平年並み	平年並み	やや良

- 注：1 「農家等が使用しているふるい目幅ベースの10 a 当たり収量」とは、県別に最も多い使用割合のふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
 2 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%に相当する。
 3 「nc」は、作柄表示地帯を再編したことにより前年産との比較ができないことを表している。

3 令和4年産水稻の主要生育ステージ

区 分	田 植 期			出 穂 期			刈 取 期		
	最盛期	最盛期の比較		最盛期	最盛期の比較		最盛期	最盛期の比較	
		対平年差	対前年差		対平年差	対前年差		対平年差	対前年差
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
北 陸	5. 11	並み	並み	8. 2	1日早	1日早	9. 17	1日早	1日遅
新 潟 県	5. 10	1日早	1日早	8. 4	1日早	並み	9. 20	並み	2日遅
下 越	5. 6	nc	nc	8. 4	nc	nc	9. 22	nc	nc
中 越	5. 15	nc	nc	8. 4	nc	nc	9. 17	nc	nc
上 越	5. 14	2日早	3日早	8. 2	1日早	並み	9. 19	2日早	2日早
佐 渡	5. 7	2日早	1日早	8. 4	3日早	1日早	9. 25	並み	並み
富 山 県	5. 11	1日早	1日早	8. 1	1日早	1日早	9. 15	並み	並み
石 川 県	5. 5	並み	並み	7. 26	3日早	2日早	9. 10	1日早	1日早
加 賀	5. 4	並み	並み	7. 24	3日早	2日早	9. 6	2日早	1日早
能 登	5. 5	1日早	並み	7. 27	3日早	2日早	9. 14	1日早	2日早
福 井 県	5. 15	1日早	並み	7. 30	2日早	2日早	9. 11	並み	1日早
嶺 北	5. 15	1日早	並み	7. 30	2日早	2日早	9. 11	並み	1日早
嶺 南	5. 14	1日早	1日早	7. 29	2日早	1日早	9. 12	2日遅	1日遅

- 注：1 最盛期とは、各期の面積割合が50%に達した期日である。
 2 「最盛期の比較」欄の「対平年差」は、直近5か年の平均値との比較である。
 3 「nc」は、作柄表示地帯を再編したことにより対平年差及び対前年差が計算できないことを表している。

4 令和4年産水稻の収量構成要素（水稻作況標本筆調査成績）

区 分	1㎡当たり株数		1株当たり有効穂数		1㎡当たり有効穂数		1穂当たりもみ数		1㎡当たり全もみ数		千もみ当たり収量	
	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比
	株	%	本	%	本	%	粒	%	百粒	%	g	%
北 陸	17.5	101	22.1	100	386	101	76.7	100	296	100	18.8	101
新 潟 県	16.7	99	22.6	99	377	98	78.2	100	295	98	18.9	102
富 山 県	19.7	104	19.8	102	391	106	75.7	98	296	104	19.2	97
石 川 県	17.9	102	22.3	101	399	103	75.2	102	300	104	18.1	98
福 井 県	17.4	99	23.3	102	406	101	72.2	99	293	100	18.0	99

区 分	粗玄米粒数歩合		玄米粒数歩合		玄米千粒重		10a当たり粗玄米重		玄米重歩合		10a当たり玄米重	
	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比
	%	%	%	%	g	%	kg	%	%	%	kg	%
北 陸	89.2	99	95.8	100	21.9	101	567	101	97.9	100	555	100
新 潟 県	90.2	100	95.9	100	21.9	102	571	100	97.9	100	559	100
富 山 県	91.2	99	94.8	98	22.2	100	582	102	97.6	99	568	101
石 川 県	84.3	97	96.4	100	22.2	101	551	102	98.4	100	542	102
福 井 県	88.4	99	94.2	99	21.6	101	542	99	97.2	100	527	99

- 注：1 対平年比とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり株数等）の平年値との対比である。
 2 千もみ当たり収量、玄米千粒重及び10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

5 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
北 陸	重量割合	100.0	0.9	1.2	1.4	2.6	13.1	80.8
	平均値	100.0	0.7	1.2	1.7	2.7	14.8	78.9
	対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.0	△ 0.3	△ 0.1	△ 1.7	1.9
新 潟 県	重量割合	100.0	0.9	1.2	1.4	2.7	12.7	81.1
	平均値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.8	15.7	77.7
	対平均差(ポイント)	0.0	0.2	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.1	△ 3.0	3.4
下 越	重量割合	100.0	1.0	1.3	1.5	2.9	13.4	79.9
	平均値
	対平均差(ポイント)	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc
中 越	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.2	2.4	11.6	82.9
	平均値
	対平均差(ポイント)	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc
上 越	重量割合	100.0	0.9	1.2	1.4	2.6	12.3	81.6
	平均値	100.0	0.7	1.2	1.7	2.7	15.2	78.5
	対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.0	△ 0.3	△ 0.1	△ 2.9	3.1
佐 渡	重量割合	100.0	0.7	1.0	1.2	2.6	14.3	80.2
	平均値	100.0	0.9	1.8	2.7	4.2	21.9	68.5
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.8	△ 1.5	△ 1.6	△ 7.6	11.7
富 山 県	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.6	2.4	13.2	80.8
	平均値	100.0	0.5	1.1	1.3	2.6	13.5	81.0
	対平均差(ポイント)	0.0	0.3	0.1	0.3	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.2
石 川 県	重量割合	100.0	0.7	1.1	1.4	2.4	12.7	81.7
	平均値	100.0	0.6	1.0	1.3	2.2	11.9	83.0
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.8	△ 1.3
加 賀	重量割合	100.0	0.7	1.0	1.3	2.1	11.1	83.8
	平均値	100.0	0.4	0.8	1.0	1.7	9.5	86.6
	対平均差(ポイント)	0.0	0.3	0.2	0.3	0.4	1.6	△ 2.8
能 登	重量割合	100.0	0.8	1.3	1.5	2.8	15.1	78.5
	平均値	100.0	0.7	1.2	1.6	2.8	15.8	77.9
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.1	△ 0.1	0.0	△ 0.7	0.6
福 井 県	重量割合	100.0	0.9	1.3	1.5	2.9	14.9	78.5
	平均値	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	15.1	77.7
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.2	△ 0.4	0.0	△ 0.2	0.8
嶺 北	重量割合	100.0	0.9	1.4	1.6	3.0	15.4	77.7
	平均値	100.0	0.9	1.6	1.9	3.0	15.1	77.5
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.2	△ 0.3	0.0	0.3	0.2
嶺 南	重量割合	100.0	0.6	0.9	1.1	2.1	11.4	83.9
	平均値	100.0	0.8	1.3	1.7	2.7	14.8	78.7
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.6	△ 3.4	5.2

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 「nc」は、作柄表示地帯を再編したことにより対平均差が計算できないことを表している。

6 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別10a当たり収量

単位：kg

区 分	ふるい目幅別10a当たり収量 (kg)					
	1.70mm以上	1.75mm以上	1.80mm以上	1.85mm以上	1.90mm以上	2.00mm以上
北 陸	541	536	530	522	508	437
新潟県	544	539	533	525	510	441
下越	555	549	542	534	518	443
中越	535	531	525	518	506	444
上越	535	530	524	516	502	437
佐渡	527	523	518	512	498	423
富山県	556	552	545	536	523	449
石川県	532	528	522	515	502	435
加賀	553	549	544	536	525	463
能登	503	499	492	485	471	395
福井県	515	510	504	496	481	404
嶺北	520	515	508	500	484	404
嶺南	485	482	478	472	462	407

注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、北陸、県及び作柄表示地帯ごとに、10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 二重枠囲は、県別に最も多い使用割合のふるい目幅ベースの10a当たり収量である。

7 令和4年産水稻玄米のふるい目幅別収穫量（子実用）

単位：t

区 分	ふるい目幅別10a当たり収量 (kg)					
	1.70mm以上	1.75mm以上	1.80mm以上	1.85mm以上	1.90mm以上	2.00mm以上
北 陸	1,072,000	1,062,000	1,049,000	1,034,000	1,007,000	866,200
新潟県	631,000	625,300	617,700	608,900	591,900	511,700
下越	316,400	313,200	309,100	304,400	295,200	252,800
中越	210,300	208,600	206,300	203,800	198,700	174,300
上越	76,500	75,800	74,900	73,800	71,800	62,400
佐渡	28,800	28,600	28,300	28,000	27,200	23,100
富山県	197,400	195,800	193,500	190,300	185,600	159,500
石川県	122,900	122,000	120,700	119,000	116,000	100,400
加賀	74,700	74,200	73,400	72,500	70,900	62,600
能登	48,300	47,900	47,300	46,600	45,200	37,900
福井県	121,000	119,900	118,300	116,500	113,000	95,000
嶺北	105,000	104,100	102,600	100,900	97,800	81,600
嶺南	16,100	16,000	15,900	15,700	15,300	13,500

注：1 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、北陸、県及び作柄表示地帯ごとに、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 二重枠囲は、県別に最も多い使用割合のふるい目幅ベースの収穫量である。

8 令和4年産水稻の被害面積及び被害量（北陸）

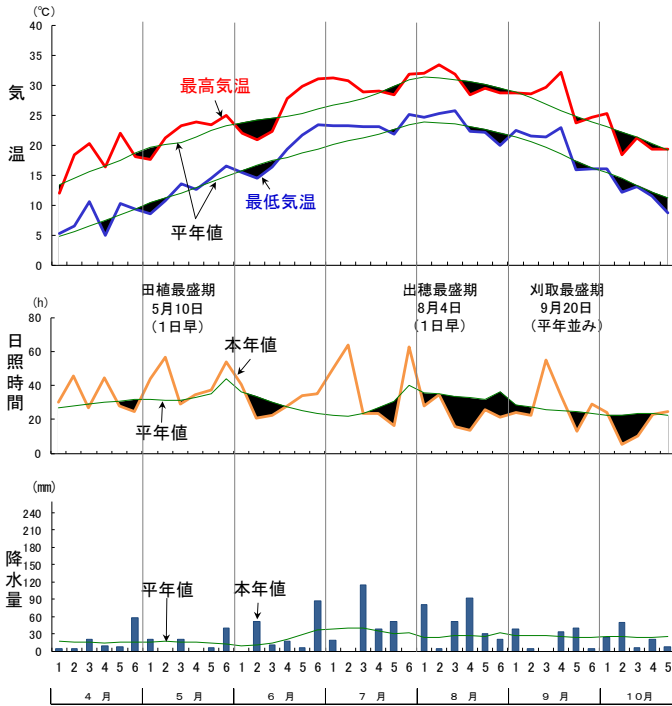
被害種類	被害面積	被害量	被害率	
			実数	対前年差
	ha	t	%	ポイント
冷 害	-	-	-	-
日照不足	152,800	13,200	1.2	△ 0.8
高温障害	96,900	8,340	0.8	△ 0.9
いもち病	12,400	2,300	0.2	△ 0.2
ウンカ	3,330	345	0.0	△ 0.1
カメムシ	10,700	1,290	0.1	0.0

注：被害は表中の6種類に限定し公表している。

◎関連データ
令和4年アメダス半旬別気象グラフ

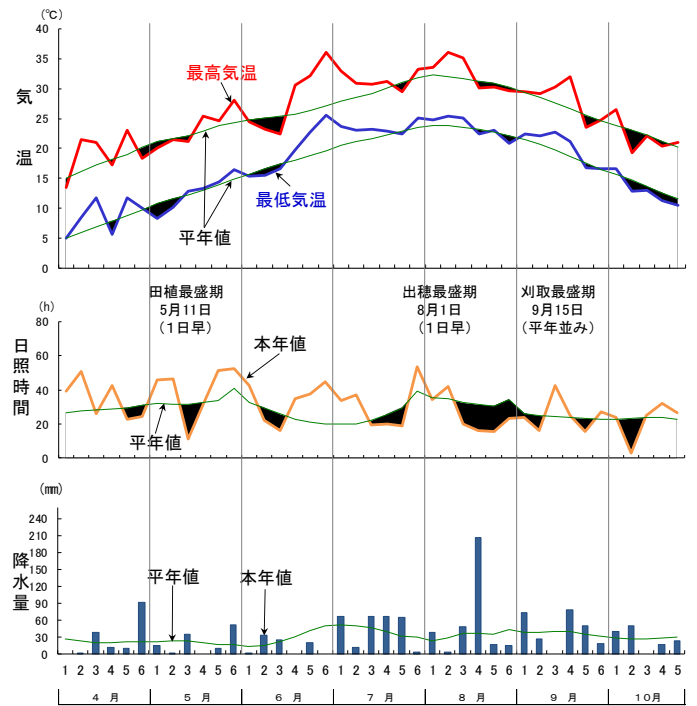
1 新潟

令和4年 アメダス半旬別気象グラフ(新潟)



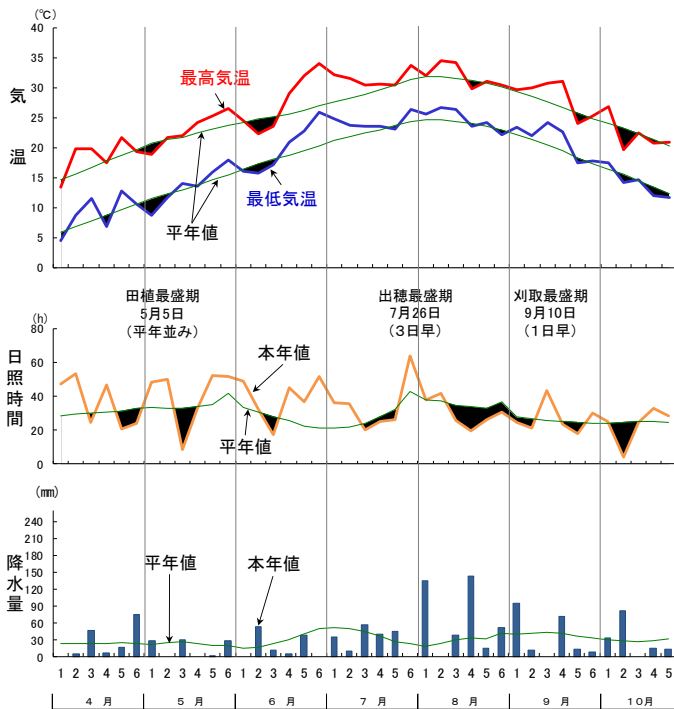
2 富山

令和4年 アメダス半旬別気象グラフ(富山)



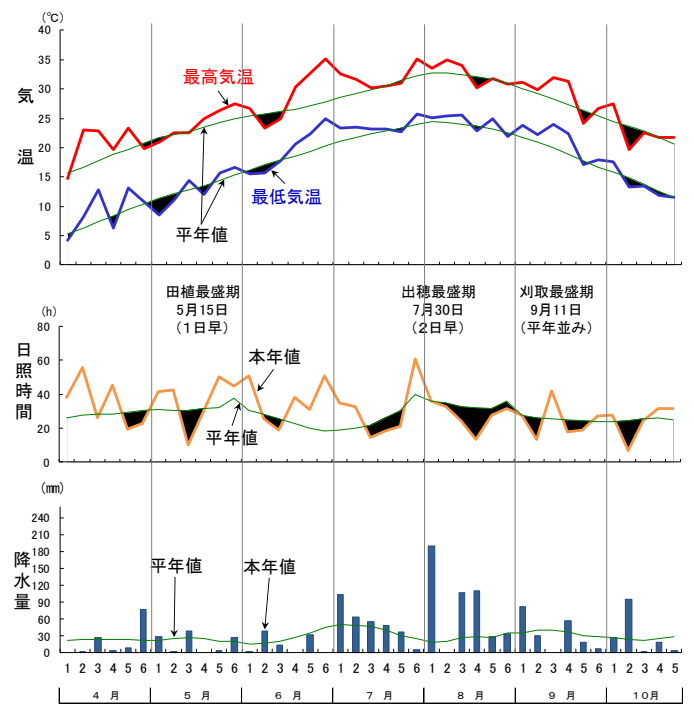
3 金沢

令和4年 アメダス半旬別気象グラフ(金沢)



4 福井

令和4年 アメダス半旬別気象グラフ(福井)

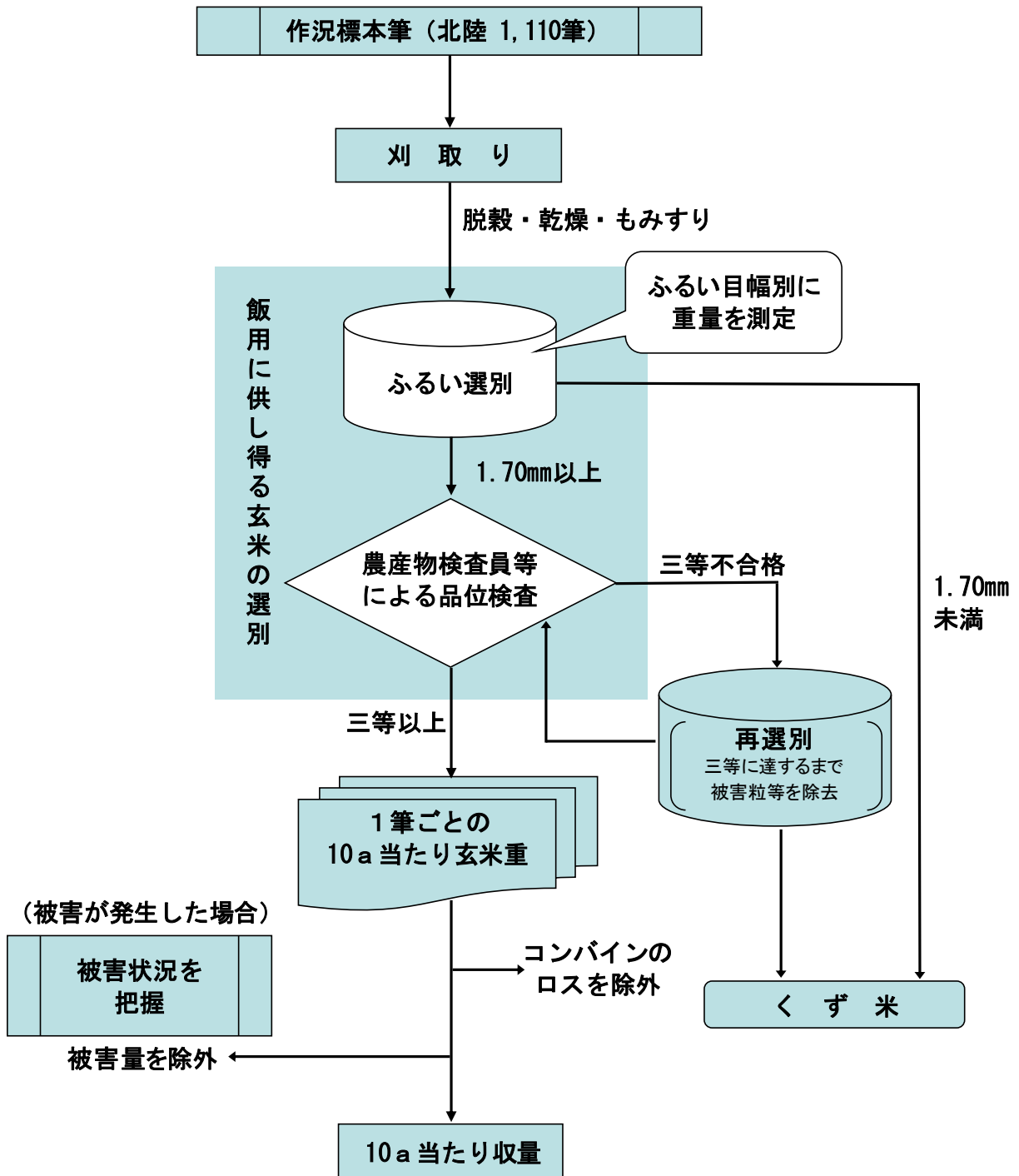


注：() 内の日数の遅速は、対平年差である。

【参考1】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考2】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

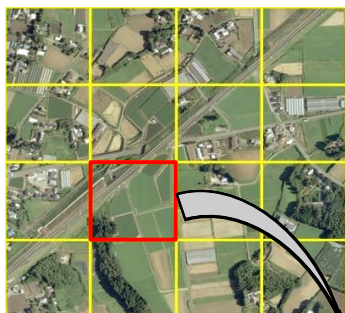


【参考2】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場^{ふで}を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北陸で1,110筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



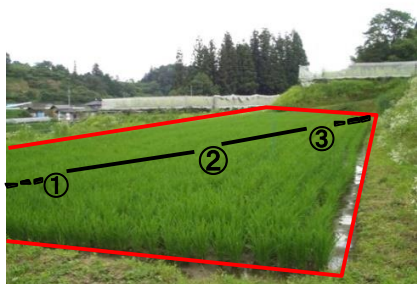
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（北陸で1,110筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・収穫量等を明らかにすることにより、米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証、経営所得安定対策の交付金算定、農産物共済事業の適切な運営等のための農政の基礎資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査対象の選定

ア 作付面積調査

水稻の栽培に供された全ての耕地

イ 収穫量調査

水稻が栽培されている耕地

(2) 調査対象数

ア 作付面積調査

北 陸 標本単位区：3,451単位区

新潟県 標本単位区：1,682単位区

富山県 標本単位区：704単位区

石川県 標本単位区：574単位区

福井県 標本単位区：491単位区

イ 収穫量調査

北 陸 作況標本筆：1,110筆 作況基準筆：12筆

新潟県 作況標本筆：440筆 作況基準筆：5筆

富山県 作況標本筆：220筆 作況基準筆：3筆

石川県 作況標本筆：220筆 作況基準筆：2筆

福井県 作況標本筆：230筆 作況基準筆：2筆

※ 作況基準筆は、地域の代表的なほ場を有意に選定し、水稻の草丈、茎数、穂数、一穂当たりもみ数等について測定を行い、本年の気象経過による作柄及び被害の特徴とその原因を把握する。

3 調査事項

水稻の作付面積、10a当たり収量、収穫量、穂数・もみ数等の生育状況、登熟状況、被害状況、被害種類別被害面積・被害量、耕種状況等

4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和4年7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

ア 母集団の編成

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200

m四方（北海道にあつては、400m四方）の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団としている。

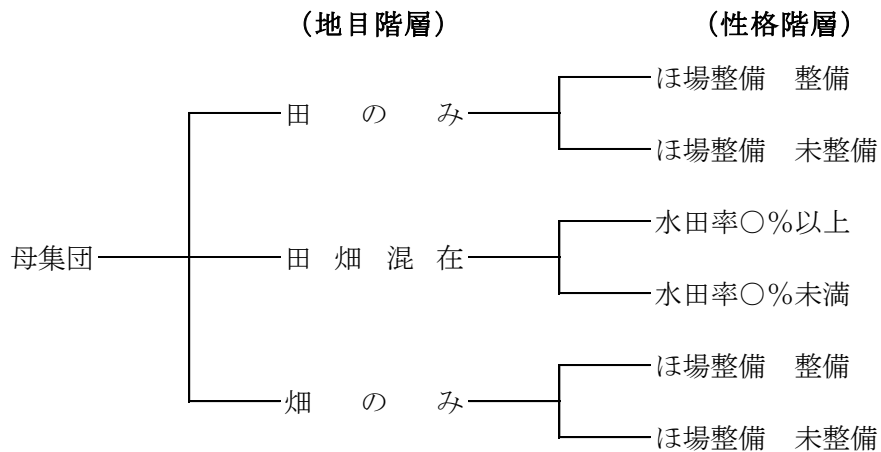
なお、単位区については、区画内に存する耕地について筆ポリゴン（衛星画像等を基に面積調査用の地理情報システムにより筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）ごとの形状に沿って作成した面をいう。）を作成し、地目（田又は畑）等の情報を登録している（後述の台帳面積に相当）。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報に補正することにより整備している。

イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、それぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類している。

階層分け模式図（例）



ウ 調査対象数の算出

都道府県別の調査対象数は、耕地の田畑別面積又は水稲作付面積を指標とした全国の目標精度（田：0.16%、畑：0.50%、水稲：0.22%）が確保されるように設定した都道府県別の目標精度（田：おおむね 0.5～2%程度、畑：おおむね 1～5%程度、水稲：おおむね 0.5～3%程度）に基づき算出する。

エ 調査対象数の配分及び抽出

ウにより算出した調査対象数を、都道府県別の地目階層別に、総単位区数に耕地の田畑別面積又は水稲作付面積の母標準偏差を乗じた結果に比例して配分し、次いで、地目階層別の調査対象数を、性格階層別に当該性格階層の総単位区数に比例して配分の上、系統抽出法により抽出する。

オ 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稲が作付けされている全ての筆について、職員又は統計調査員により1筆ごとに現況地目、耕地の境界及び作付けの状況を確認する。

カ 推定

水稲作付面積の推定においては、都道府県別に面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況の水稲作付見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の田の台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（田台帳面積に対する

実面積の比率) を乗じることにより、全体の面積を推定し、職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況水稲作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

なお、北陸の値は、県別の値を合計して算出した。

キ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

(2) 収穫量調査

ア 母集団

(1)のイにより、「田のみ階層」及び「田畑混在階層」の地目階層に分類される単位区を母集団としている。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稲の作柄を表示する区域として、水稲の生産力(地形、気象、栽培品種等)により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

ウ 調査対象数の算出

都道府県別の調査対象数は、全国の目標精度(0.3%)が確保されるように設定した都道府県別の目標精度(1~2%)に基づき算出する。

エ 調査対象数の配分及び抽出

都道府県別の調査対象数を階層別に水稲の作付面積に10a当たり収量の標準偏差を乗じた結果に比例して配分する。

階層別に配分された調査対象数を単位区の水稲作付面積(田台帳面積)に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稲が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆(実測調査を行う筆)とする。

オ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

カ 10a当たり玄米重の算定

各作況標本筆について、一定株数(1㎡分×3か所の株数)の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米(農産物規格規程(平成13年2月28日農林水産省告示第244号)に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの)となるように選別し、各作況標本筆の10a当たり玄米重を決定する。

各作況標本筆の10a当たり玄米重の平均を基に階層ごとの10a当たり玄米重を推定し、水稲作付面積で加重平均することにより都道府県別の10a当たり玄米重平均値を算出する。

キ 10a当たり収量の推定

カにより算出した都道府県別の10a当たり玄米重平均値に、コンバインのロス率(コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス)や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10a当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆(10a当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準

とするものとして有意に選定した筆をいう。)の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

ク 収穫量及び被害量

キにより推定した10a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。

6 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稲、わら専用稲等を含む。)のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりの穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素(1㎡当たり穂数等)の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95%~98%	99~101%	102~105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり収量の比率である。
 なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降の作況指数は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

作況指数の算出に用いるふるい目幅

新潟県	富山県	石川県	福井県
1.85mm	1.90mm	1.85mm	1.90mm

- (8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。
- (9) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に収穫されると見込まれる収量から減収した面積をいう。

- (10) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に収穫されると見込まれる収量より減収した量をいう。
- (11) 「被害率」とは、平年収量（作付面積×10 a 当たり平年収量）に対する被害量の比率をいう。

7 作柄表示地帯とそれに含まれる市町村

県	作柄表示地帯	市町村						
新潟県	下越	新潟市 胎内市	新発田市 聖籠町	村上市 弥彦村	燕市 阿賀町	五泉市 関川村	阿賀野市 粟島浦村	
	中越	長岡市 見附市 津南町	三条市 魚沼市 刈羽村	柏崎市 南魚沼市	小千谷市 田上町	加茂市 出雲崎町	十日町市 湯沢町	
	上越	糸魚川市	妙高市	上越市				
	佐渡	佐渡市						
富山県	富山	県下全市町村						
石川県	加賀	金沢市 川北町	小松市 野々市市	加賀市 津幡町	かほく市 内灘町	白山市	能美市	
	能登	七尾市 中能登町	輪島市 穴水町	珠洲市 能登町	羽咋市	志賀町	宝達志水町	
福井県	嶺北	福井市 坂井市	大野市 永平寺町	勝山市 池田町	鯖江市 南越前町	あわら市 越前町	越前市	
	嶺南	敦賀市	小浜市	美浜町	高浜町	おおい町	若狭町	

8 その他

この資料の確定した詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（令和5年2月予定）するとともに、その後刊行する『令和4年耕地及び作付面積統計』及び『令和4年産作物統計』に掲載する。

なお、公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

【ホームページ掲載案内】

- 北陸の各種農林水産統計調査結果は、北陸農政局ホームページ「統計情報」で御覧いただけます。
【 <https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/> 】
- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ「統計情報」で御覧いただけます。
【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】
この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。
【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html 】

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先：北陸農政局 統計部
生産流通消費統計課
電 話：（代表）076-263-2161 内線 3646
（直通）076-232-4895

連絡先：北陸農政局統計部（新潟県担当）
電 話：025-224-1441

連絡先：北陸農政局統計部（富山県担当）
電 話：076-441-0340

連絡先：北陸農政局統計部（石川県担当）
電 話：076-241-3175

連絡先：北陸農政局統計部（福井県担当）
電 話：0776-22-3676

◎農林水産統計全般について

連絡先：北陸農政局 統計部
統計企画課 企画係
電 話：（代表）076-263-2161 内線 3622
（直通）076-232-4892



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<https://www.e-stat.go.jp/>